



岡山県精神科医療センター
コミュニケーション情報誌

～岡山県精神科医療センター理念～
人としての尊厳を第一に安心・安全の医療をめざします。

Jupiter

[ジュピター]

2017
WINTER
VOL.25
冬号



今年の一文字

Content

2 新年の挨拶／職員表彰

知ってますか？この病気 — VOL.4 —
特別編その1

3 「ロンドンでの留学を通して」

～依存症治療の日本との違い～

4 第5回 院内交流会

6 委員会紹介

[第11回 NST委員会]

7 地域医療連携だより

8 趣味いきいき便り

8 編集後記



今年の一文字は「熟」
よく実る、という意味。



当センターのシンボルマークは安心・安全の医療を表しています。

ノアの方舟で主人公ノアがハトを放ち、オリーブの葉をくわえて船に戻ってきたところを表しています。安住の地を求めて、安心・安全の医療を追求し進んでいくことをシンボライズしています。

新年の挨拶

今年の一文字「熟」

理事長・中島 豊爾

今年は一酉^うの年である。これは酒の器を表すが、転じて実った作物の収穫の時期という意味になった。一方、「熟」はよく実る、という意味である。しかし、熟しすぎれば種を取るしか道はない。当センターは、職員の良き働きによって思いのほか早く熟してしまった。

昨年は精神保健指定医の問題や相模原事件などがあって、精神科医療にとっては災難の年であった。まさにこのことが、日本の精神科医療はすでに熟しすぎている証である。

今年こそ、熟した実の種から新しい木を育て、次の展開を図るべき時である。

臆することなく舵を切れ！



果敢に挑戦を進めたい。

院長・来住 由樹

今一度、原点にもどって大切なことは何なのか、自分自身に問い直して前に進めていく時である。社会の変化は、医療に転換を求めており、精神科医療も同様である。足元から再構築することが必要である。

一人ひとりにとって、尊厳が保たれる医療、ホッと安心できる医療、困難な状況の突破につながる医療を実現していきたい。精神疾患に罹患する困難を、ともに打開する支援を行いたい。

職員諸兄姉は縁あってこの病院に集まった。奮起し、アイデアをひねり出し、次なる一步をともに考え踏み出してほしい。

平成28年度 職員表彰

ここにその榮譽を称え 今後のさらなるご活躍を期待します。

救急救命・チームワーク賞

あなた方は、患者さんの急変に気づき迅速な救命処置を行い、回復までの付き添いを含め最後まで結束して看護にあたられました。

★看護部 看護師・兼田悠志
「他の病棟からの応援も迅速でまさにチームワークが発揮された一例だと思っています。この度はこのような賞をいただき本当にありがとうございます」
★看護部 看護師・桐原 基
「発見したときは初めてのことで、頭が真っ白になりました。応援を呼んだのですが、その後はどうしていいかわからず固まっていた。今後はしっかりと対応ができるように精進してまいります」と思っています」

★看護部 看護師・林 明子
「私のしたことは小さなことですが、周囲の皆様が連携してくださり大きな結果となりました。この受賞は関与した全ての方のものだと思っています。これを励みに今後も精進していきたいと思っています」
★看護部 看護師・横 健吾
「人生初のAEDボタンを押して緊張しました。これからも皆様の足を引っ張らないように頑張っていきたいと思えます。賞をいただきありがとうございます」



架け橋で賞

あなたは班内はもちろん、他部署との橋渡し役であり、献身的な姿勢がひときわ輝いています。

★リハビリ部

作業療法士・池上淳哉
「今回表彰していただいて、素直に大変ありがたいことだなあと感じました。これからも頑張っていきたいと思えます。よろしくお願ひします」

常に前向きで賞

あなたはどんなことでも絶対に弱音をはかず前進し、その強さとしなやかさは抜群です。

★リハビリ部

臨床心理技術者・藤井 桜
「この度は、素敵な賞をいただきありがとうございます。皆様様に支えていただいているおかげで、前向きに頑張ることができております。今後ともよろしくお願ひします」

サポート賞

あなたは依存症病棟を揺るぎない意志で支えてこられました。

★医療部 医師・角南隆史

「この度は表彰いただきまして、ありがとうございます。今後とも患者さんのために日々頑張りたいと思っています」

安全・安心をあなたがどうで賞

あなたは病棟・外来のあらゆる危険な場面に対応し、患者さんとそのご家族を守るため、日々貢献されました。職員からの信頼は絶大です。

★事務部 保安室長・守上弘之

「表彰いただきありがとうございます。何なりと言ってくたさい」

中3開拓の雄で賞

あなたは安全・安心の環境を構築するため、「スタッフステーション」から患者さんの元へという仕組みづくりに取り組まれました。

★看護部 看護師・井村 純

「今回は、中3開拓の雄で賞、という励みになる賞をいただきましてありがとうございます。今後安心・安全の医療を目指し邁進したいと思っています」

リーダーシップ賞

病院変革のため、救急急性期病棟の改革に昼夜を問わず奮闘されました。

★医療部 医師・耕野敏樹

「この度は表彰いただき大変うれしく思います。このように現場での評価をされると、大変励みになります。今後がんばっていききたいと思います」

知っていますか?この病気 -VOL.4-

特別編
その1「ロンドンでの留学を通して」
～依存症治療の日本との違い～

今回から2回に分けて「知っていますか?この病気」の特別編として
依存症をテーマにお送りしたいと思います。

■ 依存症とは?

依存症とは、誰にでも起こる可能性がある脳の構造的かつ機能的変化を伴う精神疾患です。ゆっくりと進行するため、本人にも周囲にも気づかれにくく、徐々に身体と精神そして社会的な影響を及ぼします。依存症になると、お酒、薬物、ギャンブルを始める人はいません。

初めの頃は、それらの楽しく心地良い体験を利用して、すなわち「いつでも自分はお酒(薬物)を止められる」と考えて、お酒や薬物を続けます。人前で不安が強い人がお酒を飲みさえすれば、社会的になれたり、うつ状態の強い人が、薬物をすれば抑うつ気分が軽減したように感じるなど依存症となる対象物には、生活をより良くしてくれる側面があるのです。アルコールやすべての乱用薬物が、脳内にドーパミンというホルモンを放出することでこれらの効果をもたらします。

ところが、人間には、恒常性といって、身体を一定に保とうとする仕組みがあります。アルコールや薬物などを積極的に利用しているつもりでも、人間の身体からすると、外からもたらされた生理的平衡を脅かすものに他なりません。

そのため、アルコールや薬物を速く代謝したり、効果を打ち消す身体機能が発達していくことになります。そうすると、アルコールや薬物の望ましい効果を得るためには、量を増やし続けなければいけないことになります。これが、耐性です。耐性が増えると、今度は定期的にアルコールや薬物が身体にある状態で平衡状態を保つようになるため、急にお酒や薬物を止めたりすると、不快な離



脱症状を経験することになります。

アルコールや薬物を使用する理由が、心地よさを得ることから、不快感を消すというもののヘシフトしてしまいます。進行した依存症者の姿は、アルコール・薬物を使用しても心地よさはなく、身体症状が強くなる苦痛感ばかりで、止めたら止めたで離脱症状に苦しむという、まさに「蟻地獄」の状況に陥ります。止めたくても止められない自己矛盾の中で、自分を責め、うつ状態に陥り自殺に追い込まれる方も少なくありません。アルコールからの離脱症状には、けいれん発作、不整脈、振戦せん妄など致死性の高い症状があります。

これらの危険を依存症の方は無意識に学習しているため、飲酒は、これらの症状が出現しないように身体の平衡状態を維持する、すなわち「生きるため」の試みともいえるのです。

尚、近年では、ギャンブルなどの行為によっても、脳内に同様の過剰な報酬系の反応が起こることによって類似した脳の変化が起こることが徐々に研究で分かってきており、依存症の概念が広がりつつあるのです。

当センターの 橋本望医師が、精神科医療の研修先である
ロンドンにおいて、日本と英国における依存症の違いについて学んできました。
次回、その内容の一部をご紹介します。

第5回 院内

内

交 流

会



「やっぱ金だよ〜デイケアの就労支援〜」をテーマに、お金だけじゃない就労について、事例を交えて報告しました。



「あそびでGO!!!」をテーマに大人にとって大事な遊びの魅力を紹介。作業は人を元気にします!



非自発的治療と権利擁護について、患者さんの意思の尊重を目指していく発表をしました。



「中3 Mind History」と題して、回復を信じて自殺を防ぐという熱い思いや、今後の課題について報告しました。



ポスターセッション



「西2をのぞいてみよう!!」をテーマにスタッフにアンケートを行い正直な思いを聞き、その中で多く上がった意見や、印象に残った意見を発表させていただきます。



「ダルクってなあに?」をテーマに、わかっているけどやめられない薬物依存症を回復へ導くための施設などの発表をしました。



「東やさしいね」と題して、東入院棟にあふれる意外と知らない「やさしさ」を発見して、あたたかい気持ちになれる発表をしました。

赤木局長の
よろろず
相談所

毎年恒例! 今回も行列ができたとかできないとか...



今年も「カフェあい」さんにご協力いただきました。毎年ありがとうございます!

演技(?)の動画など、各部署の特徴をよりリアルに実感できました。
そして、毎年恒例の作業療法士によるリラックスタイムを挟み、2群に分かれて行われたポスターセッションは11題あり、紙芝居による発表やクイズ形式の発表があり、会場は笑い声と笑顔に包まれ、大いに盛り上がりました。
クリスマスの3連休にも関わらず、過去最高の参加人数を記録しました。参加していただいた職員の皆さん、カフェあいの皆さんの多大なるご支援ならびにご協力に心から感謝いたします。ありがとうございます!



背中で語る院長…。このあと「オラに元気を〜!!」と叫びます(笑)



今年も職種を問わず、大勢の職員が参加し、大盛況の会でした。



椅子に座ったままでのストレッチ。リラックスして次のプログラムへ!!

テーマ
元気玉で
GO!!



平成28年12月23日(金)、サントホールで「第5回院内交流会」が行われました。今年のテーマは「元気玉でGO!!」。スタッフ皆が職種や部署の垣根を越えて交流を深め、お互いを認め合い、元気玉を交換し、元気になる会にしたということ、このテーマに決まりました。
来住院長の開会の挨拶では、今回のテーマにある「元気玉」についての説明があり、実際に元気玉を放つ練習をし、会場全体に一体感が生まれる挨拶となりました。
橋本先生による「英国でのアディクション留学体験」の講演では、イギリスのアディクション治療や文化について、苦労話も交えながらわかりやすくお話ししていただきました。皆さんの留学したいという意欲も高まる内容でした。
口頭発表では3題の発表があり、イメージアップ動画や名

委員会 紹介

第11回 NST委員会

入院患者さんの栄養状態改善、
早期回復を他職種で支援します。



NST委員会とは

NST (Nutrition Support Team) 委員会は、毎月第4木曜日に開催しています。当委員会の主な目的は、栄養状態が不良である患者さんの栄養改善や、嚥下機能が低下した患者さんが安全に経口摂取できるようサポートを行うことです。

月1回の委員会では、1カ月の間に介入の依頼があった方について今後の見通しや、改善策について話し合ったり、栄養管理に関する情報の共有を行っています。

NST委員会メンバー

医師、看護師(各入院棟から1名)、作業療法士、薬剤師、管理栄養士の多職種で構成されています。

活動内容

〈栄養改善支援〉

入院時の評価で栄養状態が

不良であると判定された方、入院中の経過により栄養不良となるリスクが高いと考えられる方に介入を行います。

「栄養不良」と一言で言っても、その原因は様々です。飲酒、嚥下機能低下、摂食障害、うつ病、など患者さんにより多岐に渡るため、その原因を考えながら介入することが必要となります。

しかしながら、月1回の委員会だけでは細やかな対応が行えません。そのため、委員会開催以外に週1回、委員会メンバーでのラウンドを実施しています。

ラウンドでは、屋食の摂取状況を観察しながら日々の観察項目、身体リハ、薬剤や食形態の変更について各職種から意見を出し合います。

〈経口摂取支援〉

入院時の誤嚥・窒息リスク評価でリスクが高いと判定された方、「食事中にムセがある」「食事に集中できない」「食形態の変更が必要そうだ」など、日々の様子を観察している看護師が食形態・嚥下機能の評価が必要だと感じた方が対象となります。

嚥下機能評価は、作業療法士・管理栄養士が中心になって行い、評価をもとに食形態を検討します。入院中、安全に経口



委員会での事例検討の様子

摂取をしてもらうことはもちろん大切ですが、退院後に継続できなければ意味がありません。退院後の生活も視野に入れた対応を行うには家族や支援者からの情報収集は欠かせないものとなります。

最後に

今後もNST委員会では患者さんにとって最良の方法で栄養状態の早期改善・安全な経口摂取ができるよう、多職種で取り組んでいきたいと思



平成28年11月17日、岡山市内のホテルにて



第1回

診療所・病院 連携のための 懇話会を 開催しました

平成28年11月17日、市内ホテルの会場にて「第1回 診療所・病院連携のための懇話会」を開催しました。普段の診療でお世話になっている県内28診療所、48名の方々にお越しいただき、とても賑やかでアットホームな雰囲気となりました。前半は現在の当センターの姿、各専門外来やデイケアの状況、サント診療所からの報告などをさせていただき、後半は会食をしつつ相互の親睦を深めました。普段は電話でお話するだけの方々と、実際に顔をあわせて会話するのはとても新鮮です。

アンケートの集計結果では、参加された方のうち85%が満足いただける会になりました。また、それだけでなく、当センターの課題点についても忌憚ないご意見をいただき、改善にむけて検討をするきっかけもいただくことができました。

私たちが当センターの普段の診療を見つめ直すよい機会になったと感じています。

今回の懇話会が診療所と当センターのスムーズな連携につながり、患者さんにとってよりよい医療を提供できる礎となることを願っています。



ステージで医師一人ひとりが自己紹介も兼ねて、ご挨拶させていただきました！

▼お問い合わせは地域医療連携室まで

地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター

- 住 所 / 〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16
- 代 表 / tel.086-225-3821 fax.086-234-2639
- 連携室直通 / tel.086-225-3833 fax.086-225-3855
- 受付時間 / 8:30~17:15





『NO SOCCER NO LIFE !!』

東入院棟 看護師 新垣 翔司

僕の趣味はサッカーです。サッカーを始めたのは小学校の頃からです。当時入団していたサッカーチームには、元エジプト代表選手だったコーチ



がおり、その関係でエジプトに遠征し、エジプトの同年代のチームと試合をしました。初めて世界を肌で感じた経験でした。

現在は、岡山県リーグに加盟しているフットサルチームに所属し活動しています。先日の入替戦に勝利したことで来シーズンは1部リーグに昇格することが決まりました。現在は昨シーズンの反省を基に、1部リーグで闘える身体を作る為、肉体改造に着手しています。また、僕はサッ



カーを観ることも好きで、スタジアムにも観戦に行っています。仕事終わりにビールを飲みながらの観戦は夏の楽しみの1つになっています。サッカー大好きです。

NO SOCCER NO LIFE !!

趣味いきいき便利

職場でも私生活でもイキイキしている職員の秘訣は“趣味”にあり？ そんな充実した日々を楽しんでいる職員の熱中している趣味を紹介します。



『初詣』

医療福祉班 松浦 秀一



皆様、明けましておめでとうございます。皆様は新年をどのように迎えられたでしょうか？ 我が家では初詣とあわせて今年は初日の出を観に行きました。我が子もいつの間にか成長し、なんと今年高校受験!!



今回参拝した神社は、学問の神様といわれており、30分ほど山道を登った場所にあります。頂上からは日の出がみられる場所があり、自分自身が高校受験の時にも元旦の早朝から参拝し、きれいな初日の出を観て勇気をいただいた思い出の場所でもあります。今年は我が子の受験に向けて久しぶりに家族で参拝してみました。有難いことに今年は天候にも恵まれ、きれいな初日の出を拝むことができ、初



めて日の出をみた子供たちも喜んでおり、良いことがありそうな気がv(。・)v
今年も色々あると思いますが、日の出のように力強く昇っていければと思います。

編・集・後・記



Jupiter

2017 冬号
VOL.25

2017年1月31日発行

発行人●中島 豊爾

編集人●来住 由樹

発行所●地方独立行政法人 岡山県精神科医療センター

岡山市北区鹿田本町3-16

☎086-225-3821代

ホームページ●<http://www.popmc.jp>

制作協力●(株)あどりえ、ぼう

印刷所●友野印刷(株)

あけましておめでとございませう。お正月はいかがお過ごしだったでしょうか。2017年の干支は酉年です。酉という漢字は、普段あまり使われていませんが「鳥」や「鶏」ではありません。「酉」は二ワトリの事を指しているのです。酉年の由来は、人に時を報せる動物。「とり」は、とりこむ、といわれており、商売などには縁起の良い干支なのです。また、親切で世話好きな特徴を持っています。悪いものは「取り」去って、良き一年へ向けて「羽ばたいて」いけるよう、念じたいものです。

さあ、今年はどうなるのでしょうか。世知辛い時代ですが、明るく元気に過ごせる一年になつたらいいと思います。